

海の事故情報（七管区）【速報値】(11月1日～11月7日)

令和3年11月11日

船の事故	発生日		発生県	船舶種類	事故形態
	11月4日	(木)	長崎県	プレジャーボート	衝突
	11月4日	(木)	長崎県	漁船	衝突
	11月4日	(木)	福岡県	タンカー	乗揚
	11月7日	(日)	大分県	プレジャーボート	運航不能(無人漂流(係留不備))

人の事故	発生日		発生県	事故区分	事故内容
	11月6日	(土)	福岡県	マリレに伴う海浜事故	海中転落
	11月6日	(土)	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落

～もしもの海中転落に備えて～

【問合せ先】

第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 浦川
安全対策調整官 川部
Tel: 093-321-2931 (内線2640)

【事件事例】

令和3年11月6日、事故者は漁港内にいたオキアミ(エビ)をタモ網を使用して掬っていたところ、足を滑らせ、海中転落する事故が発生しました。事故者は近くにいた男性に救助され、命に別状はありませんでした。なお、救命胴衣を着用していませんでした。

・冬の海の注意点

1～2月の海の最低海水温度は10度以下となる場合があります、この時期に海中転落した場合、低体温症(体温が35度以下)となるリスクが大幅に上昇します。低体温症の症状として、最初に各種身体的不調(震えが止まらない、思考力・判断力の低下)が発症、海中転落から約30分～60分で意識不明となり、1～3時間で命の危険があると言われており、速やかな救助が必要となります。

・海水温と生存時間の目安

海水温度	意識不明に至る時間	予想生存時間
0度	15分以内	15～45分間
0～5度	15～30分	30～90分間
5～10度	30～60分	1～3時間
10～15度	1～2時間	1～6時間
15～20度	2～7時間	2～40時間
20～25度	2～12時間	3時間以上

【※船員の低体温症対策ガイドブック(資料提出:東京海洋大学大学院 海洋スポーツ健康学科研究室)から抜粋】

・海中転落したら

水中では、大気中よりも25倍も早く体温が奪われていきます。水中で身体を動かすと体温低下が促進します。また、頭部は放熱の速度が速いため、救助を待つ間、右の図のような体温を逃がさない姿勢(HELP姿勢)を取ることが推奨されていますが、救命胴衣を着用していなければ浮力が確保されず体勢の確保が困難となります。

・HELP姿勢

(Heat Escape Lessening Posture
: 体熱放散減少姿勢)



自分の命を守る3つのポイント

- ・ライフジャケットの常時着用 ～体力(体温)温存、浮力の確保～
動かずに浮くことが出来、頭部の水没を防ぐことが出来ます。
- ・携帯電話等の連絡手段の確保～速やかな、救命要請～
防水タイプや防水パックに入れた携帯電話を携行し、速やかに救助要請をしましょう。
- ・118番の有効活用～海のもしものは118番～
海で事故に遭った場合は、海上保安庁緊急通報連絡先「118」番に通報しましょう。